

日本原子力学会 標準委員会 発電炉専門部会 地震PSA分科会
第1回 地震ハザード評価作業会 議事要旨

日時：2004年7月28日（木） 10:00～12:30

場所：(独)原子力安全基盤機構 第15会議室

出席者：（敬称略）

委員 蛭沢〈主査〉、能島〈副主査〉、野田〈幹事〉、安中、石田、宇賀田、
尾崎、尾之内、香川、福島、藤原、吉田 12名

常時参加者 坂上、美原、三明 3名

傍聴者 水谷 1名

事務局 太田

配付資料

P7WG1-1-1 日本原子力学会標準委員会

P7WG1-1-2 委員名簿

P7WG1-1-3 標準委員会規約

P7WG1-1-4 地震PSA分科会の設置について（部会承認 PTC15-9）

P7WG1-1-5 地震PSA分科会・作業会の進め方（案1）

P7WG1-1-6 地震PSA分科会・作業会の進め方（案2）

P7WG1-1-7 地震ハザード評価手法1

P7WG1-1-8 地震ハザード評価手法2

議事要旨：

議事に先立ち、事務局より委員12名が出席しており、本会議が決議に必要な定足数を満たしていることが報告された。

1) 委員紹介（自己紹介）

委員名簿の記載順序に従って出席委員の自己紹介が行われた（P7WG1-1-2）。

2) 標準委員会活動について

事務局より、標準委員会の設置目的、組織構成、及び活動の概要について説明がなされた（P7WG1-1-1）。

3) 標準委員会規約について

事務局より、標準委員会の運営内規・通則について説明がなされた（P7WG1-1-3）。

4) 人事について

まず、主査の選出が行なわれ、互選にて蛭沢委員が主査となった（蛭沢委員：9票、高田委員：2票、能島委員：1票）。主査の指名により、能島委員が副主査に、両者の協議により野田委員が幹事に決定した。

続いて、坂上 正治(原子力安全基盤機構)、美原 義徳(鹿島建設)、三明 雅幸(関西電力)の3名を常時参加者として承認した。

5) 地震PSA分科会の設置について

事務局より、地震PSA分科会の設置目的や構成、及び作業会の役割について説明がなされた（P7WG1-1-4）。

6) 地震PSA分科会・作業会の進め方（案）について

蛭沢主査より、標準の構成や作業内容を中心とした作業会の進め方の案について説明がなされた。また、分科会及び3作業会の主査・副主査・幹事で集まって検討を行うことが提案された（P7WG1-1-5）。

尾崎委員より、スケジュール及び作業方針を中心とした作業会の進め方の案について説明がなされた（P7WG1-1-6）。

・スケジュールについての議論があり、より前倒して検討する必要があるとの意見があった。

・地震PSA分科会では標準の形態を仕様規定のものとするため、例題の掲載が必要であるとの意見があった。これに対し、学会としては標準の書式に従っていることが前提であるとの見解であり、記載の仕方については今後検討していく必要があるとの認識を得た。

- ・分科会及び3作業会の主査・副主査・幹事による会合の開催と幹事補佐の選任については、本作業会の主査・副主査・幹事に一任することとなった。
- ・本作業会の委員構成は多岐の分野にわたっているため、適宜原子力関連の情報提供を実施していくこととなった。

7) 地震ハザード評価手法の紹介について

蛸沢主査より、原子力安全基盤機構における地震ハザード評価手法について紹介された（P7WG1-1-7）。

尾崎委員の指名を受け、三明常時参加者より、産業界における地震ハザード評価手法について紹介された（P7WG1-1-8）。

- ・地震波の作成については、建屋・機器フラジリティ評価作業会のニーズを聴いた上で地震ハザード評価作業会において検討することになるとの方向性が示された。
- ・本日、2種類の評価手法の紹介を受け、次回の作業会において安中委員、能島委員、藤原委員、香川委員により地震ハザード評価に関する情報の紹介をお願いすることとなった。
- ・評価フローを作成してから標準の目次構成を議論することが提案され、本日の配布資料や各委員からの紹介内容等を参考に評価フローと目次案の作成を行えばよいとの意見があった。
- ・事務局より、学会標準のフォーマットについて次回の作業会で説明したいとの意見があった。

8) その他

次回の作業会は8/25(水)の9:40から、以下の議題を予定している。

- ・安中委員、能島委員、藤原委員、香川委員による情報の紹介
- ・事務局による学会標準のフォーマットの説明

以上